及講習会を実施。

昨年を上

る参

月 19

-23日に全国安全登山普

U T H

C

L

Ū B

Ō

企画により

せられ、 加表明が

37名が参加、

大きな事

全国各支部より続

点々と寄 亩 国立登山

研修所の後援を得て、 が秋晴れの剱岳に集結

Y

中堅会員

引き続き、

、全国

[から若手・

東海支部 (学生部含む) もなく全員が無事に下 加 青年部 W Ÿ 山 10 名 部 11 名

玉

秋 れ 0) 剱 7

Ш 普及講習

誠 可 内 未

から引き続 合つ これまでY である竹 た3日間の様子 それぞれ き2度目 0 内麻未さん Ŭ が力を出し合い、 の 開催 Η が描かれ となっ CLU から報告してもらう。 た全国安全登 В ている。 を牽引し 向上心をもっ てきた野澤 山 I 普 及 講 て真摯 全国 習 .誠 か 5 司

会員が集まり、

旧と向

かい

さ

んと参加者 様子を、 年

昨

部 3 名、 登山 せてい 支部5名、 所専門職1名。 修所 イド3名(本会会員)、 研 ただい 0 修 全面 所夏 本部スタッフ2名、 岐阜支部1 た Ш 的な協力をい 宿泊は、 前 逦 峉 国立登-登山 を利 広島 ただき、 崩 研 Ш z 山修 岳 支

百 ij (方稜 ĺ 22日には、 IV ダ 峰 線、 1 _フ として エ 源次郎 1 ガ · ス群、 パ 1 尾 1 テ Ŕ 本峰 1 ス を タ



剱岳をバックにメンバー集合

直近 察山 策などについて指導 南壁を登っ 研 修所で講師も務 また本会会員であ の 岳警備隊 Щ 岳事故 た。 0) 傾 Ш 日 めてい じて には 向 そ 富 15 員により、 る山 国立 ただ L Ш て対 県 登 11 警

全登山に近づく礎となることを願

が、

さらなる

技

術

0)

向

上と安

員たちが膝を寄せ合 ガ であった。 あることを、 会が全国に会員を擁する山 こかしこで見ることができた。 0 1 イ Щ としてともにザ F た。 の情報を交換する光景をそ の皆さん 夕食時には各支部 改めて確認したこと ŧ 1 Щ ル 捳 ルを繋 会の 自 「岳会で 5 の会 メン 0) 13 地 で

習会の 0) 支部会員に今回 リー 技術を習得するとともに、 登攀技術 る。 それらの根幹にある安全登 全国 ダーを育成するという本講 技術や理論を相互に学び合 各支部会員 的を達したものと自負し 津 0) . 々浦 向 の経 上 Þ Oが地 0) ために切 験を伝えるこ H 本山 元に戻り、 磋

2014年(平成26年) 10月号(No. 833) 公益社団法人 本 山 둆 日 The Japanese Alpine Club 定価 1 部 150 円 会員の会報購読料は年会費に 含まれています URL http://www.jac.or.jp

次 Ħ

e-mail jac-room@jac.or.jp

秋晴れの剣岳にて 全国安全登山普及講習会報告・・	1
平成26年度支部合同会議開く	
会員増強・支部友制度などについて話し合う・・	4
ピァクシー峰 (6090 m) 初登頂	
3度目のカルチャ・ナラ未踏の山へ・・	5
国民の祝日制定を記念して	
第1回「山の日」を語る米子集会開催・・	7
110周年記念海外登山隊を再募集・・	8
日中韓学生交流会余話	9
東西南北 · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	10
活動報告・・・・・・	12
集会委員会/図書委員会	
支部だより・・・・・・	13
茨城支部	
図書紹介・・・・・・	14
図書受入報告 · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	16
会務報告 · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	17
ルーム日誌・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	18
新入会員 · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	19
会員異動	19
図書交換会出品目録および購入申込みの案内・・	20
INFORMATION · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	22
日本山岳会所蔵資料紹介 No.15 · ·	23
編集後記	23

▶日本山岳会事務(含図書室)取扱時間 水・金・・・・・13~20時 第2、第4土曜日……閉室 第1、第3、第5土曜日……10~18時

9月20日 っている。

降が大変だったが、とても良い経 時・池ノ谷乗越→14時・帰着 出発→9時50分・八ツ峰の頭→12 43分・Dフェースの頭→17時・帰 年部1、岐阜1) 4時・出発→8時 →9時50分・八ツ峰の頭→17時10 【八ツ峰上半】①3名 (ガイド クライムダウン、懸垂下降を含 長次郎のコルからのガレの下 ②3名(東海3)4時・出発 岩登りを経験できて良かっ ③3名(東海3)4時: 1

時05分·出発→5時55分· →12時12分・ 【源次郎尾根】①4名(青年部4)5 剱 岳本峰→ 15 時 取 付 48

いてきた。 する危険箇所の



源次郎尾根を登る。木々の色づきに 秋の気配

↓ 7時

50

分・

取

付 ↓ 10

時

20

:バンド→15時・クレオパ

トラニ 分・上

ルの頭→17時05分・帰着

きた。 でロー ンバー 源治郎尾根や剱岳が初 プを使用し、 がいたが、 4つの危険箇所 安全に通過で めて 0)

部1、広島1)4時50分・出発→8 時00分·登攀開始→10時15分· ド1、広島2)4時50分・出発→8 岳本峰→14時·帰着、 時40分・登攀開始→10 岳本峰→14時・帰着 【本峰南壁】①3名(ガイド1、 ②3名(ガ 時30分·剱 剱

験になった。 する伝え方も勉強になった。 指導する際に、 分がリードできるようになりたい。 ープの登攀をし、勉強になった。自 自分がリードをするための良い 実際に経験することができ、 ダブルロープのビレイを初 久しぶりにダブル わかりやすく説明 今後、 めて 口 経

30

時

験になった。バリエーションル

1

トが初めてのメンバーもおり、

良

い経験となった。

口一

プを必要と

判断

能力が身に付

国2 20分・二股→11時・池ノ平小屋(泊 →14時25分·帰着 分・小窓→11時25分・ タッフ1、 【北方稜線 (1泊2日)】 ①8名 /21日5時30分・出発→7時20 学生2名はSLの指導の 20日 5 時 30分 · 出発→ 8 時 青年部3、 東海2、 剱 **公岳本峰** 下 (ス 兀

9 月 21 日 めと活用の勉強になった。 の北方稜線であり、 くを学んだ。 ほ かの バンド 4名は初 め 7

越→14時10分・剱岳本峰 →8時20分・2P目で滑落→9 【チンネ左稜線】 |分・下降開始→12時・池ノ谷乗 30分・出発→7時30分・ ①3名 (東海3)4 . 17 時 15 取 付 時

なかった点が今後の大きな課題で を適切に判断することができて イミングシューズを使用するのか きた。ただし、 最優先しながら撤退することがで の後の行動を決定し、 から良く岩を観察できていなかっ 実際の墜落を前にして冷静にそ 状況に応じて登山靴かクラ 取付に到着する前 常に安全を 13

イド1、 【チンネ中央チムニー】①3名 青年部2)5時30分・出 ガ

・ファインディングの練習など多

窓手前までトップを歩き、

ル

1

本峰南壁。会期中晴天に恵まれた

ション力、

セカンドとのコミュニ

いう判断力、

支点構築のバリエー

1

のどのあたりを登るかと

ケーションを学ぶことができた。

【**M峰Aフェース】**①3名

(ガイド 4 時

スタッフ1、

四国1

05

1

ス

0) 頭

1

14

時

25

ガ

·の見極 デ以外での岩登りは初めてで、 雪渓でのライン取り、 でアイゼンを着脱しながら歩い 分・前進基地 を教わり、 30分·Aフェ 分・出発→7時30分・取付→9時 ガイドをトップに雪渓、 勉強になった。

年部2、 分・四峰の 50分・Aフェースの頭→11時 時・出発→7時10分・取付→8時 程を消化することができた。 きく時間をロスすることなく、 化方稜線 【Ⅵ峰Aフェース+八ツ峰上半】 前進基地出発から帰着まで、 四国2)21日5時05 (1泊2日)] 頭→14時45分・帰着 ① 4 名 4 行 大 35

22日6時05分・ 復)→12時05分・ 発→10時25分・池 出発→7時50分 池ノ平小屋(泊) ノ平(仙人池 分·出 往

歩き方など

た

番の雰囲気が掴めた。

45分・帰着 小窓→13時10 剱岳本峰 16 時

続いて1泊2日のロングランをよ になった。内1名は源次郎尾根に 年部1)4時・出発→9時3分・八 9 月 22 日 くこなした。 ツ峰の頭→11時・クレオパトラニ トップを歩き、 ードルの頭→15時45分・帰着 【八ツ峰上半】①2名(ガイド1、青 メンバー2人には初 内1名はほぼ全部にわたって アイゼン装着時や休憩を含め、 ぬてコンティニュアスで歩い トップの良い練習 めての ル

富山県警察山岳警備隊・石川隊員による勉強会

常に安全を意識することや安全確

保の大切さを学び、 危険予知・防

れた。 いた。 |の山での在り方を教えていただ 安全に対する意識を高めら

→18時00分・帰着 四国1) 4時40分·出発→5時40 時15分・剱岳本峰→15時35分・帰 15分・出発→4時57分・取付→9 分・取付→13時30分・剱岳本峰 【源次郎尾根】①4名 ②4名(スタッフ1、青年部2、 (東海4)4時

ディ 岩稜帯登攀技術、 道迷いをしなかった。皆で協力し ークの確認と実践ができた。 コースタイムより早く到着でき ング、懸垂下降などロー ルートファイン ・プワ

30分・剱岳本峰→15時30分・帰着 岩の弱点をつき、 分・出発→7時3分・取付→12時 インディングしながら無事登 【本峰南壁】①4名(東海4)4時15 正規ルートを外れてしまったが、 自らルートファ 損で

時 30 頭→15時40分・帰着 本目)→11時40分・Aフェースの フェース頭→9時20分・取付(2 【M峰Aフェース】 4時・出発 分·取 付→9時 00 分·A $\stackrel{\downarrow}{7}$

IJ Α Í フェース。うち1名は2回目を メンバー2名にとって初の で登攀した。 VI 峰

> 時45分・Cフェースの頭→15時45 【M峰Cフェース】 4時・ · 出発→10

ができた。 き方などを教わりながら登ること 点な支点の使い方)、ハーケンの抜 の取り方についての考え方 ィがいて時間があったため、 プの交替を教わった。 3人でのマルチピッチで 先行パーテ のト 不安 支点

たい。 考え方を教わった。今後に活かし ングビレーを取る際の時間短縮の フェースの頭→16時05分・帰着 →7時50分·取付→10時20分· 【M峰Dフェース】 アンカー構築の考え方、 4 時・ ランニ 出 発

くる。 るが、 が好き、でも淋しいのは嫌い」と のゲーム世代。 大部分は、バーチャルリアリティ 山を始めた山ガール、 にこだわるのか。 送ってくれた。 き始めた山々が、 ί, 人用テントを買って山にやって来 た。特に最終日は、 期間中は雲一つない秋晴れが続 !岳会に多くを期待して入って だが、 たちまち自分の限界を知 登山の本質はカタロ その世代は なぜ剱岳での登攀 ブームだけで登 我々の下山を見 山ボーイの 黄色く色づ

> どんなに人間社会が変わっても山 見ても、本会は100年前からよ 剱の登攀に向かっていく。 の中に少しの喜びを持って穂高や 会の心棒・中心軸はいつの時代で ろいろあって良いだろう。だが、本 山があった。登山の楽しみ方はい その延長線上に雪山があり海外の り高くより困難に向かって来た。 や落石はない。 世界である。 であることを叩きつけられて知る ばならないし、山 と人間臭いところをさらけ出さね グやファッションではなく、 は変わらない。我々は恐れと緊張 あっても登攀であり雪山である。 つの時代にもある『剱岳点の記』を いくら上手になっても、 クライミングジムで 畳の上の水練はい は仮借なき相 急な雪渓

す。 の場を借りて篤く御礼申し上げま の献身的な協力がなければ、 や各パーティのリー なりました。さらに本会所属のプ に遂行できなかったでしょう。 ロガイドの皆さん、本部スタッフ 岳警備隊の高瀬隊長にもお世話に なりました。また、 今回も国立登山研修所の渡邊所 星野専門職には大変お世話に 富山県警察山 ダーの皆さん

Conference Report

平成26年度支部合同会議開く 会員増強・支部友制度などについて話し合う

ものを再構成したもので、 育成、 20 初めて。 と事務局長がともに参加するのは 担当者会議として開催されていた った。 32支部から支部長・事務局長が参 て話し合った。従来、支部事務局 会館プラザエフで開かれた。 総勢8名の大規模な会議とな 21 日、 -成26年度支部合同会議が9月 また支部友制度などについ 会員増強、次期リーダー 東京・四谷駅前の主婦 支部長 全国 σ

は、 る」などと挨拶した。 に立っている。乗り切っていくに 司会で始まった。冒頭、 「本会は高齢化を迎え、大きな岐路 会議は高原総務担当常務理事の 支部の活性化およびYOUT CLUBの活動が不可欠であ 森会長は

織・体制」、 説明し理解を求めた。森会長は「組 部がどのような舵取りをしようと しているのか、重要項目について 方針」を説明した。70歳の年齢制限 詳細な会務報告があった。 また「次期人事の基本 執行

> 質的に信任投票が行なえるように は現行どおりとし、 したいと語った。 選出方法を実

髙橋重之

おり。 説明があった。 加も確実で、 80歳台が78%を占めており、 付者への顕彰制度の新設について を目指し、 対策のひとつとして寄付金の増額 にとって厳しい時代になる。 予測される。 10年間で約1400名の自然減が 会員5056名の内、 いて高原常務理事が報告した。 「高齢化が進む日本山 吉川常務理事から、 会費収入に頼る本会 また、永年会員の増 主な報告は次のと 60歳台から [岳会] その に 今後 寄 全 つ

策委員会に連絡してほしい。 環境保全の観点から、 ための窓口を設置する 部主催の山行を的確に把握するた る名義後援 ▽トレイルランニング事業に対す め、登山計画書を提出してほしい ▽登山計画書提出・事故連絡 事故があった場合は遭難対 般登山者の安全、 ŀ レイルラ その 支



ないが、 特徴を生かし運動を広げてほしい。 各支部に委ねられている。 にどのような魂を入れていくかは 行する 施 200山を対象に登頂ツアーを実 発行した。 を全国支部の協力を得て7月31日 ∇ ンニング自体を否定するものでは ・平成26年スタートの「山 ・新版『日本三百名山登山ガイド』 また 『新日本山岳誌』 2版を発 名義後援は行わな 110周年事業として 地域 一の日 0

■支部友制度について話し合う

的に議論したのは初めてだ。 友制度について話し合った。 会務報告のあと、 2日目に支部 会員

> 事が披露した。 検討がなされている。 増強・財政基盤検討PTで制 ンケート調査の結果を高原常務理 った会友(準会員)制度に関するア 事前に行な 度

61 ツキがあり、 000円から6000円までバラ を取り入れており、 1名が登録している。 年会費は1 りしないところもあるが、 4支部が導入した。 32支部の内22支部で支部友制度 3000円が最も多 この5年間で 定義がはっき 計 49

がいて、 いる。 動に参加してもらう」と明記して を持たない。 は 問題点も指摘された。 度の適用年限を3年とした」と、 は「会友が会員より多くなり、制 アップを望まないで支部友に留ま 身者を会友としている。 いるが、広島支部は 員への入会を前提に、 ついて北海道支部は、規定で「本会 協力する余裕がない」 ることもある」という。東海支部 支部から発言があった。 「制度はあっても、 日本山岳会会員になる会友 それなりの効果をあげて 「登山教室出 当面支部活 と現在制 登山活動に 山梨支部で ステップ 目 的

支部友制度はこうだといった結

法も違っているが、今年度10人以 れだけ各支部での考え方、運用方 度)を考える上で役に立った」とコ の内5支部でこの制度を運用して 上の支部会員増加を見込む6支部 論を導くまでに至らなかった。そ 会長より いることに注目したい。最後に森 メントがあった。 一支部友制度 (準会員制

各支部の活動を披露

子登山」「マスコミ・新聞」そして 職者の層が厚いとの話には元気づ り巻く環境での高齢化と、 それなりの長い歴史がある。本部 けられた。活路を見出すためのキ ボーイ、それに自然志向の定年退 の初心者・未組織化ということだ からの方策に対しての取り組みも 約のなか熱心な報告があった。 ーワードが各支部より出された。 った。そんななか、山ガール・山 てもらった。1支部3分という制 「支部友」などであった。 た単純なものではない。各支部に 様ではない。共通だったのは、取 支部の活性化はこうだ、とい 全支部より支部の活動を披露し 「登山教室・講習会」「親 入会者 つ

Indian Himalaya

ピアクシー峰(6090 **3度目のカルチャ・ナラ未踏** 初登 山頂

-等書記官)

隊長

星

-等書記官、鈴木、八木大使、星、土屋、大島-

ド・ヒマラヤ登山隊の遠征を行な カルチャ・ナラ流域のD氷河源頭 9年)、第11次チェマ峰・全員登頂 今回は、第10次アッチェ峰(200 次ヤン峰以来16座目の登頂となる。 ことができた。1988年の第1 の未踏峰を目指す3度目の遠征で (2011年)と同じラホール地区 日本山岳会東海支部第12次イン 7月4日に全員登頂を果たす

11次の遠征時、 キャラバン中に ある。



7月4日午前8時30分、全員登頂

 $\underbrace{\mathsf{m}}_{\circ}$ 国後、 みると、 う少し上のようだ。ひと峠越えて スマホのGPSと合わせると、 青年部副委員長・土屋隊員所有の ゾン・愛称ガジュ氏の了解を得て、 であろうと思われたが、若いリエ 初は、C2サイドのピークがそれ 目的の山の特定に手間取った。当 表示と、隊の高度計との差があり、 河側の映像を残したいと考えた。 奪点付近やその先のバラシグリ氷 踏峰の登頂と併せて、 から今回の遠征では、 せて思いを膨らませた。 れはロマンを掻き立てる図で、 と、登頂ピークが記されていた。そ 代の登山家が踏査した登山ルート だいた。その図には、1950年 域が入った概念図のコピーをいた に偶然お会いし、カルチャ・ナラ流 名誉会員の 7月2日、 ロシアンマップの氷河の標高 氷河の縮小は歴然としてい ロシアンマップと突き合わ 登攀意欲を掻き立てる目 C2設営(5200 D氷河の略 同地区の未 その思

ハリシュカパティア氏 男

的の峰が現れた。 間くらいは掛かると皆で判断した。 で協議したところ、 定する。 登頂予定日は7月4日か5日に設 C2に戻 登頂には10時 ŋ

を見上げながらコンテで登り、 くなっていく。最後の雪壁は青空 頭に、いよいよ登攀開始だ。 来の遠征となる鈴木登攀隊長を先 ける。2000年のダウラギリ以 取付地点で登攀具、アイゼンを着 雪が降る中、C2を3時に出発し、 止する。雲が上昇し晴れ間が大き 出発から5時間、 良く5ピッチほどで稜線に出た。 ックスロープを使い、雪の状態も 7月4日、午前2時起床する。小 小ガレ場で小休 フィ

の八木大使より夕食会のご招待を 日夕方は、在インド日本国 Hiden Peakの意)と命名した。 登頂の報告を行ない、 はIMFにて6090m無名峰 本食をご馳走になり、 受けた。全員久しく食べていない日 (Pyagski:ラホール地区の言葉で ピァクシー 隊としても 大使館 同

注

IMF: Indian Mountaineering

30 分に全員登頂を果たす。 雪が緩み出し それを取 14時にC

眼下の岩と雪の 前8時 所期の目的を果たすことができた。 その場で各自写真やビデオを撮る。 囲む大きな氷河が幾つも見える。 日差しも強くなり、 てきたので下山を急ぐ。



崩れやすい急峻な岩稜帯に向かう

隊の構成 ります。また、 栄誉あるひとときを過ごすことが を借りましてお礼を申し上げます。 にありがとうございました。 のご協力をいただきました。本当 念海外登山基金の助成を受けてお できた。 今回の遠征には、 記念になる一日であった。 支部内外から多く 110周年記 紙面



C2 より中央遠方にセントラルピークを望む

7 月 14 日、

デリーに帰着。

翌日

コッ 美代(62)隊員:土屋昌代 隊長:星 デシュムク(38)高所ポー ゾン・オフィサー:ガジェンドラ・ ジ ヤ ジェントスタッフ・ ク1名、 一男 キッチンボーイ1名、 (63)登攀隊長:鈴木 ВС ター3名、 38 リエ シマネ

Foundation ©

らいただいた。 賛をラフマ・ミレージャ なお、後援を愛知県山 「岳連盟、 パン社 協 か

購入することもできるので、 登山装備は、 年の登山料は 況は変わらない。 と感じた。 どの対応は、以前よりスピー してほしい。 ンに近い山の申請については、 【参考】インド登山 窓口であるIMFの登山 ただし、 IMFでレンタル 「半額」となっ また、 インナーライ 今年と来 てい 甲請 デ 状 1

年次晩餐会に関するご案内 総務委員会

今年の晩餐会の会場は、新宿の京王プラ ザホテルに変わります。

本年の催し物は、図書委員会主催の図書 交換会、またアルパインスケッチクラブに よる作品展、および日本山岳画協会会員の 作品展示もありますので、ぜひ併せてご覧 下さい。

講演会は、2014年9月29日、未踏 峰マンセイル峰(6242m)の初登頂に成 功した日本山岳会学生部女子ムスタン登山 隊のメンバーを予定しています。

10月中旬に案内状を発送しますので、 会員の皆様、お誘い合わせのうえ、ぜひご 出席ください。

期日 12月6日(土) 場所 新宿・京王プラザホテル 本館4階・5階

Mountaineering Day

国民の祝日制定を記念して 「山の日」を語る米子集会開催

山陰支部 中井俊

雨の中、 境庁の中国四国地方環境事務所 行政に力を入れている鳥取県や環 労者山岳連盟に呼びかけて8月8 年度から実施されるのを記念して 地元の日本海新聞などの後援を得 方々に知ってもらうためで、環境 日」を語る米子集会を開いた。 センター小ホールで第1回 日(金)、米子市のコンベンション 山陰支部では、鳥取県山岳協会、勤 「山の日」 国民の祝日 「山の日」 が平成28 折からの台風接近で激しい風 山岳関係者や市民およそ 制定の趣旨を多くの 山の

の日 は命の源です。山との付き合い方、 を紹介した。兼森さんは12年の経 郎支部長が、国民の祝日に先行し 語り、次いで、広島支部の兼森志 の日」協議会顧問の成川隆顕さん た。続いて鳥取県出身で全国 山の環境・安全などを考える『山 300人が集まり盛会だった。 て広島県で独自に開催されている 〈ひろしま「山の日」県民の集い〉 - 鳥取には麗峰大山があります。山 集会には平井伸治知事も出席し 祝日制定までの経過と意義を 』の制定を祝いたい」と挨拶し 山





挨拶をする平井鳥取県知事

ピソードを紹介して会場を沸かす



要です。 家の植村直己さんと明治大学山 副支部長。廣江さんは世界的冒 が大切だ」などとアドバイスした。 して、事前に皆で話しておくこと るかなど《もしも》のときを想定 山計画書 (届) 作成の大切さを強調 都・滋賀支部) 岳プロガイドの山本一夫さん(京 大山をホームグラウンドとする山 しょう」と連携を呼び掛けた。 政のバックアップを得ることが重 験と実績を踏まえて、 締めくくりは山陰支部の廣江 次の講演テーマは安全登山 「負傷者が出た場合はどうす 守る活動は県民が主催 同期生で、 全国規模で運動を盛り上げ 地域ごとの活動を充実さ 数々の興味深い は準備段階での登 「山に親 Ĭ, 行 工 し

> のびのびと育つため野外学校を作 の現役を退いたあと、子供たちが とともに、植村さんが登山と冒険 陰中央新報で紹介された。 環境をつくることの大切さを訴え ろうと準備を進めていたことを紹 て会場を埋めた参加者の共感を得 介し、夢を持つこと、夢を育てる 集会の模様は日本海新聞と山

め、山との深い関わりを考える日 していきたいと考えている。 して「安全な登山や環境保全を含 山陰支部ではこの集会を契機と 引き続きこの運動を継続

110周年記念海外登山隊を再募集

*

はます。 まず、**支部海外登山隊部門**です。 ことを目的として、支部が主体的 ことを目的として、支部が主体的 に実施する海外登山ぼを募集して

まとめる活発な支部が出てくるころ支部海外登山については、すでろ支部海外登山については、すでに実施した埼玉支部、東海支部にに実施した埼玉支部、東海支部にに実施しですが、まだ少し時間がかる見通しです。海外登山計画をかる見通しです。海外登山計画をかる見通しです。海外登山計画をかる見通しです。海外登山計画を

提出をお願いすることにしました。ともに、改めて提案してもらい、再

員会並びに業者選定作業検討小委

理事会の承認を得て、

申がなされました。

次いで実行

ツアーの3件を実施する方向で答

レ

ッキング、③日本三百名山登

ング、②ブータン・ヒマラヤ・ト

にれまで20%から心等がありまた。 とを期待しています。 とを期待しています。 とを期待しています。 とを期待しています。 とを期待しています。 とを期待しています。 とを期待できるもの。 は力」などグローバル化した時代 の要請に応え得る学術調査隊を期 待しています。

また、 半島と日本の火山性山岳地帯の景 性の問題が指摘されました。 で具体性への指摘がなされました。 識経験者による企画審査特別委員 観比較研究調査隊です。そこで学 査隊についても、 合致していますが、 は重要な課題であり、時代性にも 会を開いて、 氷河後退の調査隊とカムチャツカ した。ゴジュンバ氷河の定量把握 した。ヒマラヤのゴジュンバ氷河 これまで2隊から応募があり カムチャツカ半島の学術調 内容を検討してきま 不明な点と具体 いくつかの点 両隊 ŧ の

うことになりました。

3番目は極限探求登山隊です。 最近は高難度の高峰登山を継続 イマーたちも出てきて、その活躍 イマーたちも出てきて、その活躍 が期待されるところですが、まだ が期待されるところですが、まだ が期待されるところですが、まだ があかかかけれている若い優秀なクラ とへの計画もあるようなので、さ どへの計画もあるようなので、さ だへの計画もあるようなので。 で、さ がのかが、まだ があるようなので、さ で、の計画もあるようなので、さ だへの計画もあるようなので、さ

ル)の踏破とサポート・トレッキ 最後が**旅行業者募集企画部門**。 会報「山」に広告を出している専 サービス)から企画提案がありま サービス)から企画提案がありま した。それらについて企画審査特 した。それらについて企画審査特 した。それらについて企画審査特

> を募集します。 後日、会員の皆様ほかから参加者 後日、会員の皆様ほかから参加者 を募集します。

応募をお待ちしています。
にあるって参加していただきたく、外登山隊を再度、募集しますので、
外登山隊を再度、募集しますので、
が登山隊を再度、募集しますので、

(110周年記念事業実行委員会)

110周年記念海外登山隊の再募集

- 募集期間:平成26年10月15日~平成27年3月31日
- ●審査・発表:随時、企画審査特別委員会で審査し、発表します。
- ●助成対象者には、いくつかの条件を了承していただきます。 詳細は個別に説明いたします。
- ●申込方法:所定の様式(事務局に請求ください)に内容の概略を記入し、計画書を添えて申請してください。
- ●問合せ・申込先:日本山岳会事務局 TEL03-3261-4433 詳細は、会報『山』4月号およびHPをご覧ください。

Students Climbing Meeting

中韓学生交流会余話

mountainの取材を受けました。 月号に掲載されました。 録係としての活動状況を話し、 People というコラムで、自分がJ ご紹介しました。翌週、山岳雑誌 件については、日本山岳ガイド協 ACで登山活動を始めた経緯や記 なり、韓国語対応できる担当者を 会が窓口になっていただくことに 研修会で出た日本人ガイド依頼の 会食に招待されました。立山での 終了の翌日、金院長から講師との 終日、日本の学生たちを連れて金 誌8月号で報告した立山での研修 哲洙院長を訪問しました。交流会 舎として開かれました。交流会最 会に参加した生態探訪研修院を宿 今回 一の日中韓学生交流会は、 9



月刊雜誌mountain 9月号

がら、こういうときこそ~山~を通 国家間に問題が生じたときは難し じて交流を継続していくよう努力 はいくらでも交流できる。 分が注力している「平和な時代に を目指して精進する」を的確に表 日より今日、今日より明日 すが、これは自分のモットー 日を話しましょう」としてありま します」で結んであります。 い。三国の歴史と文化を理解しな しています。記事の最後は現在自 (大きなハングルで書いてある)を 自分が話した内容からタイト 緒に山に登って昨日、今日、 しかし 向上 昨 明 jレ

0)

について検討したい、とのことで 側から提案された簡便処理パック 事としていく考えです。今回韓国 前・今回の日中韓学生登山会でリ スタン登山隊の井上由樹子隊長は 会で韓国隊員から エコ対策、 ダ役を務めました。彼女は山 本誌8月号で紹介された女子ム クのハングル説明文の翻訳を ました。 5月、 汚物処理を専門の仕 「日本のトイレ 立 山 日の研修

> 彼女の活躍を期待します。 法の研究が必要」とのこと。 たが、井上さんは|あれはヘド は臭わないがなぜか」と質問 したあとのメンテが大変。 バイオトイレの説明をしまし 別な方 · 口化 があ

村

越

稔

会に参加できました。 られ、谷川岳での日中韓救助研修 JMA小野寺氏は自分を覚えてお キー大会の撮影に行きましたが、 栂池で開かれたJMA主催山岳ス 日本に行く」と聞き、帰国後幹事役 ました。彼から「9月に救助研修で 銀君と今回の学生交流会で再会し 交流会で登山競争に優勝した姜兆 小野寺氏に電話しました。昨年、 2年前、 武漢で行なわれた学生



する予定です。

皆様の山岳活動、

JMA日中韓救助研修会(9月6日谷川岳)



けるよう支援するつもりです。 を撮影し、写真・動画で伝えてい 自分も総会に参加 特に国際交流

Ν 山 の日」制定記念シン

ポジウムの開催 金井良碩

う」―山に親しみ、山に感謝する― 議会後援による「今宵、 毎日新聞社主催、 ある毎日新聞 去る 8月11日に、 オー 全国 バルホールで、 大阪市北区に |山の日|協 山を語ろ

ネパー が、 番高い山やから日本人が登っとか 念なく登攀装備の研究と開発を進 改めたとのことである。そして、余 かという素朴な疑問と抵抗である。 サイパルの初登頂を果たしてきた モットーに、 が登れなかった山に登る」ことを 入ったことのない、 たと語った。 とともにエベレ 直己隊員に続き、 1次アタック隊の松浦輝夫、 め、遂に1970年の5月には、第 なあかんわな」との言葉に考えを しかし、松下幸之助氏の「世界で一 いる所に、 って、英米人などがすでに登って オニアワークを自負する平林にと したと述べている。 企画を任されることになって困惑 とを指摘してい 日本山岳会からエベレストの ル人シェルパのチョタレ いまさら、 西ネパー スト登頂に成功 る 第2次隊として、 つまり、 \exists なぜ行くの ルのアピや 1 ・ロッパ 日 本人が 植村 1

演と、

毎日新聞社の榊原雅晴氏が

コーディネイトするトークセッシ

ョンとの2部構成で実施された。

「山への想い」のタイトルの基調

ジウムが開催された。

日本山岳会

元副会長の平林克敏さんの基調講

と題する「山の日」制定記念シンポ

らのヨーロッパ赴任の経験で感じ

口

人の自然観とは異なるこ

人間と自

|然を対立軸に置くヨ

を持っていると論じる。そして、自

ことから、

山に対しても畏敬の念

自然を心のよりどころにしている

講演では、

冒頭、

平林は日本人が

会員の皆様のご意見、エッセイ、 短歌、 詩などを掲載する ページです。 どしどしご投稿く ださい。 (紙面に限りがありま すので、1点につき1000字程 度でお願いします)

S



ほぼ満席となったシンポジウム会場

き特集記事として報じられた。 版におい 席にする活況であった。 となどが話し合われた。 かかわりと想いを語り合うととも 御秒奈々に平林を加えた4人のト 武藤文隆、 医師で京都府立医大WV部 る榊原をコーディネー 人収容のオーバルホールをほぼ満 模様は9月13日 このシンポジウムは、 クセッションで、 第2部は京大山 自然とのふれあいが貴重なこ て、 タレントで山 全面2ページの見 0) 岳部OBでもあ 各自の山 毎日新聞近畿 ターとし なお、こ 約 ガ Ö B 4 1 スの ル 0) て、 開 0 0)

だが、文に付された「飯豊本山北北 澤智也氏が亡くなった。氏の山 りの解釈を述べてみたい。 た方もおられるかと思い、 にした明解な「山の科学画」に親し る。それに付言することはないの 年に寄せた追悼文に尽くされてい 力した清水長正氏が、『山岳』百九 脈の氷河分布図を世に出すのに尽 果たした功績については、最大の 地形に関する研究と知識の普及に 山々の「科学画」で知られた五百 足跡を遺し、 が何を表しているのかと戸惑われ んだ向きには、クロッキー風の絵 東面・大岩沢」図は、ペン画を基本 労作である日本アルプスと日高山 わが国の氷河地形研究に大きな ヒマラヤや日本の 筆者な

たこの鳥瞰図の中央部には大岩沢上流部の谷の全容が描かれており、上流部の谷の全容が描かれており、と頂上直下の新しい氷河地形の特と頂上直下の新しい氷河地形の特と頂上直下の新しい氷河地形の特と頂上直下の新している。はじめのうち筆者は1972年に描かれたこの絵をその目で見ていた。したこの絵をその目で見ていた。したこの鳥瞰図の中央部には大岩沢

形は、 釈を表したものと解される。 形成されたものである、という解 て山頂部一帯を覆った氷河作用で な凸型斜面のことで、それは らかな地形」とは山頂部の緩や く山稜部の地形であることに気付 という説明文で、主眼は谷ではな 開析作用で細かく刻まれている。 付けの「ふくらんだなめらかな地 いた。文面から、「ふくらんだなめ して覆っていた氷河で削られたも 氷河が消えた後、 古い氷河期に山頂部を連続 水流による かつ ゕ

0mから、南南西に向かって撮ら る北北西上空からの俯瞰が最良で えてくる。 をもう少し上げればそれがよく見 Google EarthS ら右奥の遠景 分布している。 るなだらかな尾根とその北斜面に は、飯豊本山から西へ御西岳に 地形図を見ると「ふくらんだなめ 基に描かれたものと考えられる。 れた画角約120度の広角写真を 8㎞の大岩沢上空、高度約220 ると、この絵は飯豊本山北北東1・ Earthの俯瞰画像をスクロールす らか」で「細かくきざまれた」地形 そこで地形図を参照し、 むしろそれを正面に見 絵では飯豊本山 俯瞰 が それ 画像 であ Google 0) 視点 る。 至 か

> 豊山に戻る機会がなく、 絵だけが残されたのであろう。 マラヤに活動の重点が移って、 いる。その後は日本アルプスやヒ て成果が得られなかったと記して 地調査では、 しかし、 氷河の図譜』2007年に再録) た氷河地形区」としている(『山 していて、上記の一帯を「開析され 飯豊山地の氷河地形分布図を作成 ころ、氏はすでに空中写真判読 視点からの写真は得られなかった あることは明らかである かもしれない。この絵を描いた 氷河作用の痕跡を探る現 密なヤブにはばまれ 結局こ が、 そ 飯 Ō 0) で

えた。 が れば、 ッパの中起伏山地にも散見され 地のほか、 る意見が出されている。 形であって氷河地形ではないとす 期の氷河によって形成されたと考 その特徴から五百澤氏も筆者も氷 馬岳の北方にも広く分布しており、 如何であろうか ふくらんだなめらかな地形は 類似の地形は国内の多雪山 しかし最近、 今は氷河のないヨー それは崩壊地 管見によ 口 白

た氷河地形区」は雪に覆われてい初旬?)の空中写真で、「開析されGoogle Earth画像は残雪期(6月現在(8月末時点)の飯豊山地の

のは、 ない。 きる。 て氷河 認められる。 リボンのような細長いモレーンも 下流に頂部のみを雪面 0 ではなかろうか。 談話会のメンバーに送ったという 若い研究者や学生の集う寒冷地形 断定できる証拠は未だ得られてい んだなめらかな地形を氷蝕地形と を受けたことは確実だが、ふくら 石転ビ沢と滝沢には、 問題の解決を次世代に託 山地 地形 というメッセージだったの 五百澤氏が最後にこの絵を 北西部の梅花皮沢上流 が 飯豊山地が氷河作用 かえって良く判読 から出した U 字 谷

動

報

日本山岳会の

活動報告です。

各委員会、同好会の

集会委員会

究ツアー」に参加「立山の見どころ丸ごと探

JACのメルマガで知り、テーマに興味を惹かれ参加しました。 マに興味を惹かれ参加しました。 素晴らしい企画でしたので、今後素晴らしい企画でしたので、今後

「エコカンデラ少ち専勿信」と芸课カルデラ砂防博物館見学) 1日目(8月26日:富山県立山

快哉を叫んだ記憶があります。 快哉を叫んだ記憶があります。 快哉を叫んだ記憶があります。 快哉を叫んだ記憶があります。 「立山カルデラ砂防博物館」学芸課 長の飯田肇氏の実証的なデータを 長の飯田肇氏の実証的なデータを と認められた」との報道に思わず と認められた」との報道に思わず と認められた」との報道に思わず と認められた」との報道に思わず

> ケ 岳・ 行なうとのことです)。 験でした わず目をつぶりました。 た。雪に見立てた1万個のピンポ 知を恥じるばかりです。 した。 砂防工事の地道な対策に感心しま よると、 ン玉が雪崩れてきたときには、 ンポン玉による雪崩を体験しまし カクネ里雪渓の氷 富山市在住経験者として無 最新の土木技術を 飯田課長ほかは、 (8月30日付新聞報道に 最後にピ 貴重な体 河調 駆使 鹿島槍 査を ĺ 思 た

復) 土沢圏谷、一ノ越を経て、雄山往 2日目 (8月27日:室堂から、浄

物館関係者と合流後、 祓堂付近の雪渓では、 うわけでないことが判りました。 いました。 張りもあり、 きした。 ンの現状や高山植物の解説を受 美女平で飯田課長ほか3名の博 ライチョウは生育地に 周囲の氷河地形、 増えればいいとい 室堂へ 雪の標本を 向 モ レ か

立山カルデラの映像を拝



「天涯の湯」で記念撮影

部へ) 採取 合 中 きませんでした。 0) 目指すも、 がありました。 氷河はガスのため覗くことはで 3 日 目 ŀ ひたすら帰路を急ぎました。 Ü 口 氷河の氷との違い 8月28日: 頂上付近では、 コで立山カルデラ中心 雨脚が強くなる ノ越から雄 : 博物館 御前沢 の解 へ集 Щ を 説

出張所前で下 しました。 四十数段の 裏からト ヘルメットを着け砂防工事事務所 0) 防工事の ポイント解説後、 佐伯克美解説員による体験学習 口 カルデラ中心部の水谷 スイッチバッ 進行を見なが ッコに乗車し、 白岩堰堤砂防 全員、 クを体験 5 黄色の 眼下に 合計

> 跡では、 思い出になるでしょう。 けました。 岩盤補強工事状況などに感銘を受 行も汗を流したであろうと感慨に しんだあとの集合写真は、 設 (重要文化財) やアンカー 層露頭(天然記念物)など、 ふけりました。 『点の記』の柴崎測量隊 「天涯の湯」で足湯を楽 泥鰌池や跡津川 立山温泉 見どこ ボ 断

峰トンネルを抜け、 遭遇、 館へ戻り、 ル シーンと聞き惚れていました。 粋の富山弁も説得力があり、 ケートを提出し、 デラを下山した経験や、 員から、 いろとお話をいただきました。 ろはたくさんありました。 ました。 メットをとり、 高名な登山家でもある佐伯解 山 車中の徒然に、 の事故の注意等 体験学習ツアーは終了 全員無事に博 体験学習のアン 記念館前で 井上隆彦 立山カル 々、 クマとの 15 生 有 ろ

図書委員会

第43回山岳図書を語る夕べ

「モンベル」に代わったというニュが東京新聞から登山用品メーカーせたのが山岳誌『岳人』の編集発行せたのが山岳誌『岳人』の編集発行

ースだ。

語るのは辰野勇氏。言わずと知れ 今回の山岳図書を語る夕べのテー マは「新生『岳人』がめざすもの」。 上前から人が集まり始めていた。 会104号室には開演の1時間以 示すように、9月19日の日本山 このニュースへの関心の高さを

たモンベルの創業者だ。

と会場の雰囲気を和らげた。 岳会会員だったことがあります の創業者です」と口を開き、続いて よる紹介が終わると、辰野氏は 「自分も1960年代には日本山 『岳人』の編集長、むしろモンベル 図書委員長の三好まき子さんに

ころに身を置き、次々と先駆的 節目で行なってきたのが「決断」で 業績を創造していくが、その節目 の本が契機となっているのだ。 にし、28歳で商売を始めたのもこ 最年少でアイガー北壁を登ること あるという。21歳のときに当時の になったのはもちろん、山を生業 ヒ・ハラーの『白い蜘蛛』がそれで る」という言葉がある。辰野氏にと っては16歳で出会ったハインリ 「一冊の本によって人生が決ま その後は敢えて危険で困難なと それは日常的な経営判断

> なぎりぎりの決断だという。 類いではなく、生死を分けるよう

ぐに決断して、とんとん拍子に話 受ける」という8つ目の決断であ 利益を出すわけにもいかない。 業界は流通大手が絶対的な力を持 も成功できなかった『岳人』。雑誌 に語る。ただ、天下の中日新聞で が進んだ」と辰野氏はこともなげ ても自分を育ててくれた雑誌。 なと思った。しかし、なんとい など。そして今回が「『岳人』を引き の決別、直営店による販売、 ケットへの挑戦、 を行なってきた。創業、 宣伝を載せるわけもなく、広告で モンベルだからほかのメーカーが って流通を差配し、利益が出ない。 る。「話が来たとき、これは困っ これまでに辰野氏は7つの決断 有力メーカーと 海外マー など す . つ た

ア雑誌はすべて定期購読だ。 ある。実際、アメリカのアウトド つかむことに置いた。定期購読で そこで戦略の軸を確実な読者を

きたい、と辰野氏は語る。 う。これをさらに1万人にして 員を中心にすでに3000人から 定期購読の申し込みがあったとい 話は雑誌のコンセプトに移る。 現状では、モンベルクラブの会

> にはなかった要素である しているのだ。これまでの『岳人』 文学的かつ科学的な要素を重要視 のナショナルジオグラフィック。

目標とするのは山の文藝春秋、

幅広く、バ

リエーション豊かな本

にしたい。山に関するアクティビ

登れなくなった山登りまで対象は を付けた」という大胆な考え方だ。 ている。「コストを考えずに価格 という。さらに価格。 これまでの ることができるような雑誌にした やすく、電車の中でパラパラと見 変更が加えられ、シンプルで読 い『岳人』は大きさや体裁に大胆な 『岳人』に比べて30%近く安くなっ 「ガンガン登れる時の山登りから かにも冒険家・辰野氏らしい。 そして『岳人』のデザイン。 新

のバックにも流れているという笛 辰野氏は山岳映画『春を背負って』 気を和らげるかのように、最後に 質問が矢継ぎ早に飛ぶ。そんな熱 葉。思わず応援したくなるのは私 組んでいきたい」という締めの言 ティをすべてリスペクトするよう だけだろうか の優しさが満ち溢れている。 なものを作りたい」。辰野氏が語る 人たちの関心の深さを示すように、 コンセプトには山を登る人たちへ 「自分は人格を懸けてこれに取 語り終わったあとも聞きに来た

部

特別山行 妻小富士 云協力登山) (茨城県自閉症協 安達太良山・ 吾

茨城県自閉症協会と茨城支部と

ティア3人、

支部からは齊藤リー

が6回目の登山になります。

者は自閉症協会から25人、ボラン

全国各地の支部から、 それぞれの活動状況を 北から南へとリポート

奥白根山、 の協力登山は、 から岳沢ヒュッテ、③三国山、④ ⑤平標山と続き、今回 ①磐梯山、 ② 上 高

地

の腕前を披露した

(近藤雅幸

ダー、 からの参加者は20人で、 年は総勢33人でしたが自閉症協会 の協力登山の立ち上げに尽力され 含め5人。本部から昨年に続きこ 人の大パーティとなりました。 た贄田さんの参加を加え、総勢34 人増えています。 奥井副支部長、 星埜顧 今年は5 昨

撮影。14時、 でにわか雨があったが天候は晴。 を一周して15時下山。 に登っていて、 ねて登山開始し、30分で吾妻小富 時に到着後、 駅に集合、8時にバスで出発。 で宿泊先の岳温泉へ。帰路の途中 から参加の2組の親子も全員順調 士の山頂へ。今回初参加者、 て一路吾妻小富士の浄土平へ。 -水戸、常陸太田で参加者を乗せ 8月3日 8月2日 快晴。 いつものように土浦 明日の足馴らしを兼 昼食を済ませて記念 安心しながらお鉢 朝食後バスに その後バス 昨年 涂 13

> バスの待つ駐車場着16時 屋着13時半。 ここからの林道は順調に進み りも遅れが出て、 開始。 昼食休憩の後、 遅れ組は小屋発14 くろがね小 先行

汗を流し、バスは17時半に出発。バ 故もけがもなく全員が無事に下山 感じている 支部としてとても大切なことだと この活動を継続していくことが、 かされて涙腺が緩くなる。 族の方たちから胸に迫る言葉を聞 スの中での反省会では、 できて良かった。 が高く相当体力を消耗したが、 行動をともにできた。快晴で気温 参加者の希望とがんばりで全員が ゴンドラ利用の選択肢もあったが 良山から登りと同じコースを下り 員が同じコースを歩いた。 当初計画よりやや遅れたが、 岳温泉の銭湯で いつも家 山田 安達太 今後も 明 事 全.



ドラに乗って山頂駅へ。齊藤リー

奥岳の駐車場で下車。ゴン

ダーの指導で準備運動、

登山開始

先行組とやや遅れの組に分

浄土平での記念撮影

県境の山である

の標識に到着。三角点のある山

を踏んで11時半に下山

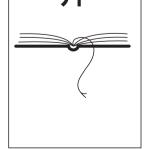
開始

組も11時には安達太良山 かれて登ることになったが遅

頂

道下 れの

冨山県山岳連盟編



富山の百山



うか。

2014年8月 北日本新聞社 A5判 260分 定価 2500円+税

れの笈ヶ岳は富山 長野・岐阜の3県 て三俣蓮華は名前のとおり富山 黒部五郎は岐阜県との県境、 えてきそうだが、 だと思っていた」という声が聞こ 実はすべて富山県の山である 三俣蓮華岳・黒部五郎岳・笈ヶ岳 鹿島槍ヶ岳・野口五郎岳・鷲羽岳 「白馬から鷲羽までは長野県の 剱岳・ さて、 次 立山・薬師岳 0 Щ は何県の 県境の山である。 深田久弥の憧 ・白馬 Щ でし そし 岳 Щ ょ

> 山々を紹介したガイドブックであ とはひと味もふた味も違う湿 栂海新道や、 名前のとおり「山に富む」県の百の 山々、さらには、 玄人好みのいぶし銀ともい 能登半島の付け根の山まで、 て富山湾越しに立山連峰が望める ブナが美しい南西部の山々、 それらの超有名どころに加 黒部別山、赤牛岳などの 県東側の岩と雪の山 日本海に延びる その 、える そ えて

名が当たったという。 県内の30山 迎えて100山を選定し、 て発行。 新聞社が創刊130周年記念とし 富山県山 取材には同行者も含めて、 岳団体 [岳連盟] から延べ650 が創立65周年を 北日本

ラ峠を越えて三河の家康を頼った。 戦国時代には佐々成政が、 て赴任した大伴家持は立山を詠い、 万葉の時代に、 越中の国守とし

斎藤清明編

になった。 うにはもったいない中身の濃い本 史にまで筆が及び、古から常に生 が感じられる、ガイドブックとい 活の傍らに山を望んできた富山の 本書は山と人との関わりやその歴 人たちの、山に向ける愛情と誇り 五箇山には平家の落人伝説も残る

次々に登場する。 に気づかされる。「ほかの県なら この本のいちばん押しであること ベスト10に入ったのに」と、思わず きがちだが、実はその陰に隠れた とするトップクラスの山に目がい 口をついてしまう魅力的な山 「二番手」「三番手」の山々こそが 表紙を飾っている剱岳をはじめ

間にこの本をチェックして、 2時間。 に開通する。東京から富山までは 順番を考えておこうか。 を登ってみよう。その前に、 確認された。来年はぜひ富山の山 がラムサール条約に登録され、立 山と剱岳に日本で初めての氷河も 北陸新幹線がいよいよ来春3月 弥陀ヶ原・大日平の湿原 冬の 登る

(三好まき子)

ら自然学へ―』 ||今西錦司伝|| 「すみわけ」か



2014年6月 ミネルヴァ書房刊 3969 4500円+税

ニアとして生きた岳人の生涯と思 -優れたリー ・ダー であ りパイオ A5判 定価

ろう。 授を歴任され、さらに岐阜大学の 明治35(1902)年京都に生まれ、 業績を挙げられた今西錦司氏は 学長を務められた。数々の学問的 先生は京都大学から岡山大学の教 である。日本登山界の先覚者だが、 にわたり全うされた高名な登山家 日本山岳会第十二代会長を4年間 「先生」と呼ぶにふさわしい方であ 本書によれば、 今西錦司先生は

郎尾根やチンネの初登攀をなし、 源次郎尾根の命名にも関係した。 の発展に尽くされた。本書にも詳 みにとらわれていない。 しく書かれているが、 目覚め、 先生は、 先生の行動範囲は登山の 黎明期のわが国の登山界 中学生時代に山登りに 剱岳の源次 探検活動

> ダーでもあった。 グループを先導した、 績をあげられた偉大なる学者であ などの学術研究において数々の業 さらに生態学、 た。また、京都大学登山・探検 遺伝学、 優れたリー 霊長類学

作に違いない。 かに本書は、先生の全貌に迫る労 行動を具体的に伝えてくれる。 その克明な描写は、読者に先生の 生涯を伝える一書を書き上げた。 生が活躍した現場を訪ね、 報告書を克明に追跡し、 献、多くのメモ、あるいはその他 ドノートにとどまらず、 た岳人だが、先生の著作、 山行などに同行する機会の多か 生の出身学部に入学し、その後も 著者は、今西先生にあこがれ先 時には先 数多の文 先生の フィ 確 5

たが、 生が求めていた世界がなんであ 章に、「自然学の提唱」を設け、先 然学については、著者は巻頭の に展開し、 みわけ」論は広く一般に歓迎され ないだろう。今西先生の唱える「す 過程を語り尽くすのは、 野に次々と挑戦された先生の思索 をモットーとし、多くの新しい分 しかし、常にパイオニアワー 今西進化論はそこからさら 自然学となる。この自 簡単では

群概説、

地図、

登攀史とその詳

ド、登攀年代記の3項目を挙げ、山

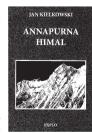
内表紙には山岳研究論文、ガイ

るのである たかを細 かく、

導者、その次の世代にはパイオニ だ優れたリーダーであり、パイオ パートナー、次世代には厳しい指 ニアとして生きた岳人の生涯と思 本書を通して、明治の日本が生ん お薦めしたい。 索をぜひ知って欲しい。ご一読を アワークの良き理解者であった。 今西先生は同時代には競 心合う

Jan Kielkowski 編

Annapurna HIMAL



(記載なし)

年発行の『Annapurna』を紹介する。 英文に翻訳された最新版2014 ラヤの巨峰情報を順次纏めている。 ウスキで、90年代中ごろからヒマ 著者の一人、山岳研究家キエウコ ランド語で7冊からなる) *の共 アルピニズム大百科事典』 著者は2003年 -発行 2014年 STAPIS Publishers (ポーランド)刊 A5変型判 272分 山岳 (ポー 定価

網羅する労作である

登攀ル

1

(写真とスケッ

チ)を

合もし

やす

写真では太陽光線

部分が

生じるが、

スケッチでは陰

関係で山の

重

なりなど不鮮

崩

な

は生じない。

スケッチに漢字入

お、

0)

英文シリー

ズ

がはっきりと描

か

れており、

誤

ケッ 興味深い 英国隊、 解を助 とあり、 件ほど並ぶ。 顕著なピー スル隊が試登した記録が続 したフランス隊、 ンダキを遡った日本人・河 3年から2013年まで14 にたやすくしてくれる。 群の南から巨峰群の 図を冒頭に掲げ、 東はラムジュン、 本隊の活動 この3点だけで、魅力的なピー ハスケッ その [の記録が1件1行ながら58 て北西部からのスケッ 登頂・登攀年代記では、 林立する山群の山座同定を非常 広大なアンナプル 西はニル チ、そし 切ける。 あとは、 3番は195 2番は チ 5番は日 猫かれ、 ルギリ、 ・クの Ó なスケッ が続々と記され 1番手は 次にアンナプルナ山 上に番号付きの てそれぞれ |概念地| 西 1899年 北はジョ 南はポ 4 か た山 チが 5 |本山 Ź 年代記との 番に英国 者に全体の 東に 0年 ケッチ、 図 1873年 ピと概 岳会マ チが 群の カラま -初登 き、 Ï 登 か Ż 力 1 4 1慧海 念ス ij 87 頂 け 0 概 お テ \mathbf{H} 1 頂 ガ ク 理 念 7 ナ 0

平成26年度(後期) 「海外登山基金助成登山計画」募集 海外登山基金審査委員会

公益社団法人日本山岳会では登山界の活性化 を目指し、優れた海外登山計画に対して「海外登 山基金 による助成を行なっています。

32回目となる今回も、困難を求めての挑戦、発 想の新しさ、夢多い計画など、ユニークな登山計 画を支援したいと考えています。会員資格やパー ティ編成などの条件は問いません。奮ってご応募 ください。

記

- ●対象 平成27年2月~平成27年7月末に海外の 山へ出発する登山隊
- ●申込方法 所定の様式(事務局にご請求くださ い) に記入し、登山計画書(15通)を添えて申請 してください。
- ●申込締切 平成26年12月31日
- ●審査と助成期間 平成27年2月中に審査し、理 事会で決定、助成。なお、助成対象となった 登山隊は後日、報告書の提出を必ずお願いし ます。JAC会報「山」に掲載します。
- ●問合せ・申込み先

日本山岳会事務局 **☎**03−3261−4433

河名。 力をし 0) 攀記録もある。 苦労が窺える。 1) バ 索引もあ Ó 巻末に山・土 リエー É キングでこの 人名。 南峰についてやや詳し て各国から情報を入手した のもあり、 ŋ ション・ル 地 便利だ。 図名。 地 また、主峰やⅡ 山群を訪れると 筆者が多大な努 河 1 ス ΪĬ ŀ ケ ッツ -登攀 谷 チ名 £ , \prod Ŕ 氷

による図書紹介参照 これてい Ш 岳 2011 车 \mathbb{H} 村俊介氏

*

す。 れることを間違いなし。 で山 部分的 (n) 観察をより楽しませてく なコピー お奨めで 参するだ

Ri Himal (1995) Himal and Kumbhakarna Hima Massif (2000), Himal (2001), Baltoro Mustagh Shisha (1999), Cho Oyu Himal and Pangma (2013)は図 Mount Everes Kangchenjunga (2005)|書室に ,Eastern ,Makalu l Kyajo 配

図書受入報告(2014年9月)

編 著 者	書 名	ページ/サイズ 発行元	刊行年 寄贈/購入別
畦地梅太郎	畦地梅太郎版画集「山男」	94p/19cm 山と溪谷社	2014 出版社寄贈
甲斐崎圭	第十四世マタギ:松橋時幸一代記 (ヤマケイ文庫)	318p/15cm 山と溪谷社	2014 出版社寄贈
正津 勉	山に遊ぶ 山を想う	281p/19cm 茗溪堂	2014 出版社寄贈
深田久弥 他	愉しき山談義 :深田久弥対話集	286p/20cm 幻戲書房	2014 出版社寄贈
多田俊明 (編)	慶應義塾大学 アルペンフェライン山岳会創立55年記念誌	304p/26cm 慶大アルペンフェライン 山岳会	2014 発行者寄贈
Rajesh Gadgil (ed.)	The Himalayan Journal Vol.69 (2013-2014)	345p/22cm The Himalayan Club	2014 発行者寄贈



平成26年度第5回(9月度)理事会

日時 平成26年9 21時05分 Ĕ $\vec{10}$ 日水19時

場所 【出席者】森会長、節田・古野各副 日本山岳会集会室

口・大槻・落合・川瀬・山 常務理事、 会長、高原・吉川・佐藤各 勝山・山田・野

賀·直江各理事、吉永監事

【欠席者】 黒川副会長・浜崎監事

について 1.支部事業補助申請 (山陰支部

別添資料に基づき審議し、5万円 るための支部事業補助申請があり 化及び新入会員増強の起爆剤とす 日本山岳会入会案内などの相談コ を企画し、これに合わせ親子登山 ーナーを設置するなど、支部活性 念第1回 山陰支部から国民の祝日制定記 「山の日」を語る米子集会

> を補助することとした。 反対なしで承認 〈賛成14、

彰授与について 2・成川隆顕会員への会長特別表

認 議した。 別表彰を授与することについて審 川隆顕会員の功績に対し、会長特 提案当初から中核メンバーとして 「山の日」制定の活動に6年前の 制定への道筋をつけた成 〈賛成14、 反対なしで承

後について 3・日中韓三 国学生交流登山の今

となる予定であるが、YOUTH 別添資料により審議した。 日本で開催したいとの答申があり、 CLUB学生部から日本山岳会の 9回開催 (開催国は中国) で最終回 14、反対なしで承認 110周年記念事業の一つとして、 三国の合意の下、2016年度に 標記登山は、 2015年度の第 〈賛成

7

認 改正について、別添資料に基づき を明確に定めるための経理規程の 担当理事、会計担当者などの権限 及び各事業を担当する理事、 本会の会計処理と支出承認権限 〈賛成14、反対なしで承 財務

いて 寄付受入及び管理規程」改正につ 5・寄付の顕彰の方針及び「℃-23

び管理規程」を改正することにつ 針や規程などはなかった。 いて、別添資料に基づき審議した。 向にあることから、「寄付受入及 団法人となり、 顕彰について、これまで明確な方 〈賛成14、反対なしで承認〉 寄付者の氏名の公表や寄付者の 寄付が増加する傾 公益社

(古野、

6・会員データ管理システムWG

本年度の事業計画書及び予算書に データ管理システムWG」からの、 の事業計画書、 つき、別添資料に基づき審議した。 〈賛成14、反対なしで承認〉 新たに7月9日発足した「会員 予算書案について

7・入会希望者について

反対なしで承認) 望者について審議した。 別添資料により、19人の入会希 〈賛成 14

4・「C-8経理規程」改正につい

現行の定款・定款細則に沿って行 により報告があった。 行使書を導入することなど、 1・次期人事の基本方針について、 反映できるよう書面による議決権 なうこと、また、会員の声をより (森)

会から、現在までの各プロジェク 添により報告があった。(吉川) 2件及び受入104件について別 について別添により報告があった。 トの進捗状況及び今後の予定など 3・110周年記念事業実行委員 2 · 寄付金 · 助成金受入事前申請

全化のためには、より一層のドラ 悪化が指摘された。本会の収支健 高齢化、会員数の減少による収支 動向を基に、別添により、 の報告があった。 スティックな戦略が必要であると 4・平成12年から平成25年の会員 (高原) 会員の

期より導入する旨の報告があった。 添資料により説明があり、 の提出及び事故連絡について、別 5・遭難対策として、登山計画書 (川瀬

議員から推薦を受けるとの報告が 6・平成26年度名誉会員候補者に 9月末までに理事及び評

あった。 7・第16回秩父宮記念山岳賞は、 (高原

8月末までに4件の推薦があった。

ので、 あり、 報告があった。 8・電子国土賞2014について 本会を推薦団体とする応募が1件 国土地理院に推薦するとの 応募の要件を満たしている

催され、 流を図っ 8月6日~12日にかけて韓国で開 10・第8回日中韓学生交流登山が 出したことの報告があった。 岳4団体が連名で静岡県知事に提 る申し入れ書を、静岡支部など山 .日本から14名が参加し、交 たとの報告があった。

うことについて報告があった。(節 ド 田 (落合) 11 · 新版 印税を執筆した支部に支払 『日本三百名山登山ガイ

願いがあり許可した。 뜐 12・関西支部より、支部報への『山 (第109年)追悼の転載許可 節田

告があった。

(節田

あり、 ための資料2点の貸し出し願いが 13・明治大学博物館より企画 ク使用承認願いがあり、 1・石川支部よりJACロゴマー 貸出を承認した。 使用を承 (節田) 展 0

(高原)

33号)」が発行され、 16 平成26年度全国支部懇談会 掲載された。(高原 15・「公益認定等委員会だより(第 (埼玉支部)に、 森会長と節田副会 当会の記事が

長を派遣する。 支部で開催される全国ボランティ 17・平成26年11月8~9日に東海 会の案内があった。(高原 ア登山(障害者支援登山)情報交換 (高原

9・リニア中央新幹線工事に関す

出席した。 催され、 18・第57回高頭祭(越後支部)が開 森会長、 (高原 高原常務理事が

った。 打ち合わせる機会があり、 で参考にしてほしいとの報告があ 19・公益財団法人公益法人協会と 務委任の考え方などをまとめたの 行理事と理事、委員長などへの業 業務執

20・『山岳』第109年の発行につ 21・『山』 9月号の発行につい いて報告があった。 (節田 · て報

【連絡事項

者中央研修会について 2 · 平成26年度安全登山普及指導 1・人事異動のお知らせ(環境省) ツ振興センター (日本スポ

> 11 及び「信州山の日 3・「信州山の日 て(長野県 」設置要綱の制定]宣言の公表につ

県 セーフティセミナー 」の案内 岡

インフォメーションビデオ案内 5·富士山安全登山、 (山梨県 環境保全 0)

6・「安全のための知識と技術 公

【今後の予定

21 日 (日) 1・支部合同会議 9 月 20 日 (土) (

時~ 2 · 評議員懇談会 10 月 17 日 (金) 16

月6日出 3·支部長会議·年次晚餐会 於:京王プラザホテル 12

案内 平成26年度第6回(10月度)理事会

日時 平成 26 年 10 月8日 (水) 19時 ょ

題 1・名誉会員の推薦につ

議

場所

日本山岳会集会室

2 ・その他

1 日 総務委員会

ノ) 9月

|静岡県×PEAKS富士 Ш 2 日

図書委員会

スケッチクラ

C L U B

Y O U T H

3 日

常務理

事会

集会委員会

 $\begin{array}{c} Y\\O\\U\\T\\H \end{array}$

C L U B

開講座(日本山岳ガイド協会)

5 日 4 日

110周年記念事業実行P

支部事業委員会

Τ

8 日 資料映像委員会 スキー ク

9 日 O U Щ ラブ 岳研究所運営委員会 Т Н C L U В Y 九

10 日 理事会 休山会 Щ 想俱 楽

五会

11 日 記念事業実行PT 地 フォトビデオクラブ 理クラブ 1 1 0 周 山 年 岳

12 日 Y O U T H ケッチクラブ C L U В ス

16 日 クラブ 00会 総務委員会 スキー

17 日 三水会 ステムWG 会員デー つくも会 タ管理シ

18 日 ちのり山の会 科学委員会 公益法人運営 委員会 海外委員会 み

図書委員会

20 19 日 日 山の自然学研究会

22 日 二火会

25 日 24 日 学生部 自然保護委員会 山の自然学研究会

山遊会

26 日 フォトビデオクラブ Y

U T H C L U B

29 日 YOUTH CLUB

30 日 デジタルメディア委員会

9月来室者 531名

会員異動(9月分)

西川信義 (10951) 14・9・1 中村美津子(10855)1・9・5 大関和夫(8951) 髙田眞哉(6450) 國見利夫(5228) 秦野一彦(4325) 14 . 8 . 14 14 9 9 . . . 13 10 9 2 20 20

退会

大西

保(11919)14

9

京都·滋賀

吉田 力 (9796 東海

お詫びと訂正 『山岳』2014年、

誤りです。 8ページ上段2行目「入国が許さ れず」は「登山許可が得られず」の こに訂正してお詫び申し上げます。 に以下の間違いがありました。こ 第109年

12ページ上段11行目 「48年の」の誤り。 「40年の」は

13~14ページ 「タイフー 「サイクロン」の誤りです。 ż

は

から」の間違いです。 萩原隊長、本田、村上隊員」は、「右 25ページ下段の写真説明「左から 00mに設けられたベースキャン ブとアウトライアー」とあります 19ページ上段の写真説明で「52 背景の山はドローモです。

(『山岳』編集委員会)

詫び申し上げます。 の誤りがありました。訂正してお 会所蔵資料紹介 NO.13」で以下 『山』831号19ページ「日本山岳

98年」の誤り。 冠松次郎略歴内の紹介者名 [受入日]の「2000年]は「19 「川島

録郎」を削除いたします。

(資料映像委員会)

No.	書名	著者/編者	発行	備考	価格
	自然と山と	今西錦司	筑摩書房	1971 函	400
147	山の憶ひ出 上・下	木暮理太郎	福村書店	1953 函 (破損)	1000
149	折々の山	望月達夫	茗渓堂	1980 函 献呈署名あり	500
152	雪と岩	ガストン・レビュファ 近藤等訳	新潮社	S42 5刷 カバー	500
153	山なみ	朝比奈菊雄ほか編	茗渓堂	S30 函	400
156	山村の四季	宇都宮貞子	創文社	S46 函 著者署名あり	500
157	忘れえぬ山の人びと	望月達夫	茗渓堂	1986 函 著者署名あり	500
161	わが山の生涯	ロングスタッフ 望月達夫訳	白水社	1957 函 (破損) 訳者署名あり	400
164	たった一人の山	浦松佐美太郎	文藝春秋	S 45 5刷	400
165	山は屋上より	足立源一郎	朋文堂	S31 カバー	1000
174	日本地理大系 富士山	武田久吉	改造社	S6 函	400
175	日本地理大系 山岳篇	山本三生編	改造社	S5 函	400
204	山への旅―りんどうは空を見ていた	牧野文子	アディン書房	S57 カバー 献呈署名あり	500
212	心に山ありて(正続編2冊セット)	今井雄二・喜美子	同信社	S54 函	500
215	にど だもれ 回想 牧野四子吉・文子	牧野四子吉・文子回想文集編集委員会編	牧野四子吉・文子回想文集編集委員会	1988 函	400
218	今西錦司初期山岳著作集 初登山	斎藤清明編	ナカニシヤ出版	H6 カバー	400
221	岩代國 若松県第一大区全図 復刻版	南会津山乃会	南会津山乃会	S62 函	2000
223	マッキンリー山田隊 極北の烈風に死す	遭難対策本部編	東京新聞出版局	1990 カバー	400
229	この山に呼ばれて―銀のピッケル 伝説とアルバータ山の初期登山史	ロバート・ウィリアム・サン フォード 芳賀孝郎監修	日本山岳会·The Alpine Club of CANADA	2000 カバー	400
235	詩集 りんどうは空を見ている	牧野文子	理論社	1983 カバー	400
240	イタリアは青い空 ふたり旅ノォト	牧野文子 牧野四子吉絵	理論社	1968 函 (破損)	400
241	ケルン覆刻 1~10・解題	ケルン編輯室編	アテネ書房	1981 2刷 函	5000
252	今西錦司全集 1~10	今西錦司	講談社	S50~53 函	4000
262	増補版 今西錦司全集 11~13・別巻	今西錦司	講談社	1993・94 函	2000
268	ヒマラヤ―毎日グラフ別冊	三木啓介ほか写真/山崎安治ほか文	毎日新聞社	S 45 2刷	500
269	マナスル写真集 1952-6	依田孝喜	毎日新聞社	S31 函	700
270	写真集 ヒマラヤを飛ぶ	山田圭一	東京新聞出版局	S50 函	500
271	ヘディン中央アジア探検紀行全集3	スウェン・ヘディン 深田久弥・榎一雄監修	白水社	1975 5刷 函	400
272	ヘディン中央アジア探検紀行全集4	スウェン・ヘディン 深田久弥・榎一雄監修	白水社	1975 5刷 函	400
273	ヘディン中央アジア探検紀行全集5	スウェン・ヘディン 深田久弥・榎一雄監修	白水社	1975 4刷 函	400
274	ヘディン中央アジア探検紀行全集6	スウェン・ヘディン 深田久弥・榎一雄監修	白水社	1974 5刷 函	400
275	ヘディン中央アジア探検紀行全集9	スウェン・ヘディン 深田久弥・榎一雄監修	白水社	1975 7刷 函	400
276	西域探検紀行全集5 カラコルムを越えて	ヤングハズバンド 深田久弥・江上波夫監修	白水社	1975 2刷 函	400
277	西域探検紀行全集15 コンロン紀行	スミグノフ 深田久弥・江上波夫監修	白水社	1975 3刷 函	400
278	山なみはるかに 山岳省察 回想の山山	三田幸夫 今西錦司 桑原武夫	あかね書房	1971 カバー	400
279	きたぐにの動物たち	本多勝一	実業之日本社	S50 5刷 カバー	400
280	山岳遍歴	深田久弥	番町書房	S42 カバー	400
282	自然学の展開	今西錦司	講談社	S42 カバー	400
294	山 ―紀行と随想―	大島亮吉	好日書房版	S 22	500
296	冒険の達人 クリス・ボニントンの登山と人生	ジム・カラン 倉知敬訳	茗渓堂	2003 特装限定本 (番外15の内7)	2000
297	山の本歳時記	大森久雄	ナカニシヤ出版	2008	800
298	イル・ミラモンドーフォスコ・マライーニ写真展	フォスコ・マライーニ/コジモ・キアレッリ	パリアイ・ポリスタンパ	2001	1500
Y 4	HIGH ADVENTURE	Edmund Hillary	HODDER&STOUGHTON	1955 記名あり	500
Y24	GLACIERS OF THE ALPS	JOHN TYNDALL,F.R.S.,	JOHNMURRY	1860	500
Y26	THE ALPS	W.MARTIN,CONWAY	ADAM AND CHARLES BLACK	1904	500

- ●頒布価格が300円以下の本は省略しています。全目録はホームページ (図書委員会) から検索できます。また、必要な方にはお送りしますので、お申し出ください。
- ●目録の申込み、問合せは三好まき子まで 🔃 (090-8019-8601) 🗵 344mm@mbe.nifty.com

図書交換会出品目録および購入申込みの案内

昨年に続き、今年も年次晩餐会で「図書交換会」を開催します。出品本は約300冊です。交換会当日の詳細は22ページの「インフォメーション」に掲載していますが、当日に来場できない方は、下記の要領で購入の申込みを行なってください。

- ●郵便(日本山岳会・図書委員会あて)またはメール(344mm@mbe.nifty.com)で、11月15日までにお申込みください。
- ●購入希望図書の番号、書名、購入希望者の名前と会員番号を必ずご記入ください。入札本 (★印1~3) の場合も、 入札価格を明記の上、同じ要領でお申込みください。
- ●複数の申込みがあった場合は、当日、会場で抽選を行ないます。来場できない方の抽選は、図書委員が代行します。
- ●全集やシリーズ本の申込みは、一括購入が優先となります。
- ●購入図書の送料は購入者負担とし、交換会終了後に代金と一緒に請求させていただきます。

No.	書名	著者/編者	発行	備考	価格
★ 1	穂高の岩場 1・2	岩稜会	朋文堂	S34・35 カバー	最低価格2000 から入札
★ 2	秘密之國 西蔵遊記	青木文教	内外出版	T9 函 記名あり	最低価格2000 から入札
★3	ヒマラヤの旅	長谷川傳次郎	国書刊行会	S 50 函	最低価格2000 から入札
16	立山ガイドの系譜	安川茂雄	三笠書房	1972 2刷	400
24	登高者	大島亮吉	二見書房	S 47	400
28	白きたおやかな峰	北杜夫	新潮社	S50 28刷 函	400
29	『日本百名山』の深田久弥と山の文学展	世田谷文学館/編	世田谷文学館	H7	800
30	登山の先駆者たち	熊原政男	校倉書房	S 38 函	600
45	日本の山の名著 総解説	近藤信行編	自由国民社	1984 カバー	400
46	松方三郎	松本重治ほか編	共同通信社	S49 カバー	500
51	ヒマラヤの高峰1 シッキム 東部ネパール	深田久弥	白水社	1983 カバー	
52	ヒマラヤの高峰2 中・西部ネパール インド	深田久弥	白水社	1983 カバー	一括2000
53	ヒマラヤの高峰3 中国 パミール	深田久弥	白水社	1983 カバー	各400
54	ヒマラヤの高峰4 西部カラコルム ヒンドゥ・クシュ	深田久弥	白水社	1983 カバー	
55	ヒマラヤの高峰5 東部カラコルム・カシミール	深田久弥	白水社	1983 カバー	
56	松方三郎 民芸・絵・読書	松方三郎	築地書館	1976 カバー	
57	松方三郎 アルプスと人	松方三郎	築地書館	1976 カバー	一括2000
58	松方三郎 手紙の遠足	松方三郎	築地書館	1975 カバー	各400
59	松方三郎 山を楽しもう	松方三郎	築地書館	1975 カバー	
60	松方三郎 山で会った人	松方三郎	築地書館	1975 カバー 2刷	
63	屏風岩登攀記	石岡繁雄	碩学書房	S52 函 著者署名あり	500
65	ネパール・ヒマラヤ探検記録 1899-1966	日高信六郎・川喜田二郎編著	講談社	S42 カバー	800
67	不撓不屈の岳人 加藤文太郎の追憶	加藤富吉・下雅意光源・山本茂信編	山本茂信	S60 カバー	800
70	越後山岳 創刊号~5号		日本山岳会越後支部	S23・30 藤島玄の手紙つき	2500
85	ヒマラヤ 一つの峰の物語	宮澤 憲	東京新聞出版局	2000 カバー 謹呈署名あり	400
86	ヒマラヤを語る	今西錦司	白水社	1955 2刷	400
87	山なみはるかに	三田幸夫	白水社	1954	400
88	ヒマラヤ 山と人	深田久弥	中央公論社	S31 函	500
89	山靴の音	芳野満彦	朋文堂	S 34	400
93	本のある山旅	大森久雄	山と渓谷社	1996 カバー	600
	山に遊ぶ心	中野孝次	小沢書店	1997 2刷 カバー	400
109	展望の山旅	藤本一美・田代博編著	実業之日本社	1987 6刷 カバー 著者署名あり	一括1000
110	続・展望の山旅	藤本一美・田代博編著	実業之日本社	1991 2刷 カバー 著者署名あり	各400
	続々 展望の山旅	藤本一美・田代博編著	実業之日本社	1995 カバー 著者署名あり	1
	放浪のあしあと	加藤泰安	創文社	S46 函 著者署名あり	700
	森林・草原・氷河	加藤泰安	茗渓堂	1966 函	400
	泉を聴く	西岡一雄	サンブライト出版	S 54 函	500
		山村正光	実業之日本社	1986 11刷 カバー	500

▼第32回図書交換会 図書委員会 インフォメーション 講演

ニエンチェンタンラ周辺 遠征組立と意見交換 0)

0

いたします。

講師 黒川副会長

出席 場所 講演500 日本山岳会 Ř 懇親50 0

定員 約40名

問合 田口憲司

時間までに購入申込みをお願いし

陳列した本をご覧の上、

抽選開始

を開始します。

14時から開場です。

日時

12月6日出15時から抽選

を年次晩餐会で開催します。

昨年に続き、

今年も図書交換会

]jktjapanjkt@yahoo.co.jp

せ ◆赤倉温泉スキー懇親会のお知ら 集会委員会

年どおり事前申込みも受付けます

(事前申込みについては21ペー

い会員も参加できます。また、

例 な

年次晩餐会に出席され

日程 温泉スキー場にて開催いたします。 27年1月のスキー 平成26年1月18日田 (火) 懇親会は赤倉 5 20 日

対象となる山行は、

場所

京王プラザホテル

年次晚

餐会会場 三好まき子

問合せ

0円 スキー 親会費用など含む (通信費、 ·参加 者 保険料、 2万10 懇 0

> や個人山行は含まれません。 式なものとなります。

費用

赤倉温泉 「赤倉ユアーズ・

宿泊

申込 定員 25 名 12月20日までに、 現 地集合・ 現地解散 会員番号、

認をお願いいたします。

マニュアルを作成し、

1

ジに掲載しましたので、

生時の連絡手順については、

日時

12 月 20

日 (土) 14

(16 時

海外委員会

◆チベット講演&懇親会

12 10 住 橋 聰迄。 東京都千代田 所 郵送、F 氏名電話 1 0 2 0 A X X などを メー 飯 田 ・ルで高 $\frac{0}{7}$ 橋 明記 2

・遭難対策規程の制定につ 7

にすることです。 がより的確かつ迅速に状況を把握 して、 わせなどに円滑に対応できるよう た場合など、 この目的は、 |時の連絡について定めま 日本山岳会が主催する山行に関 また、 登山計画書の 関係機関からの問い合 事務局及び担当役員 万一事故が発生し 遭難対策委員会 提出と事故発

(各委員会、各支部)が主催する公 登山計画書の提出方法と事故 日本山 本会ホー 同好会山 運用 岳会 4 発 行

寄稿原稿の分量と写真へのお願い(編集部)

本誌は20頁という限られたスペースで展開して います。そのため、お寄せいただいた原稿を確実 に掲載するには文字量の制限が必要です。 タイ ル部分込み900文字(15字×60行)が適正です(これ に写真があれば添付)。オーバーする場合は、 編集 部とご相談ください。

また、添付写真は、 「集合写真 | のみに偏らず、 活動中の「動き」や「その場を彷彿とさせる」カット が、より誌面を充実させてくれると思います。

送 ■ご注文は書店、 岐路に立つ自然と人類 今西錦司 ―「今西自然学」と山あるき として自然に関わるなか を収載した。 西自然学」の主要論考と 唱えた。本書では、その「今 から、独自の「自然学」を 登頂した今西は、 歳までに国内1500座を 山に関するエッセイなど 元日本山岳会会長で、 A5判カバー200頁 蓍 定価1800円+税 または直 最新刊発売中 登山家

小社へ。小社へご注文される 83 TEL.03-6272-5207 FAX.03-6272-5208 〒101-0051 東京都千代田区神田神保町 2-2-12 edit@webarts.co.jp

場合、送料は小社負担です

日本山岳会所蔵資料紹介 No.15

「資産番号」 10059、10064、10072、139

「資料名」 足立源一郎山岳画

[部 門 名] 絵画

[寄贈者] 足立源一郎、足立朗

「受入日」 不明



①焼岳河原にて(1951年作)



②滝谷第二尾根(P8号、1959年作)



③北穂高岳主峰(25号、1959年作)

足立源一郎(1889~1973年)は日本が誇る山岳画家である。

足立の山岳画は、現場主義として高く評価されている。それは1年の大半を北アルプスで過ごして描くという、足立ならではの作風からであろう。1971年、最後の登山として長塀山へ登る。そして1973年、最終作『春の穂高岳』を仕上げている。

山岳作家としても、国内外に多くの足跡を残した。代表作に『滝谷ドームの北壁』(1952年)、『北穂高岳南峰』(1957年) などがある。

当会へは絵画 4 点が寄贈されており、3点(写真①~③)は本部に展示、1 点(ある朝の槍ヶ岳、25号)は伯耆国美術館に寄託している。今号では本会に展示されている①~③について紹介する。①焼岳河原にて(104号室に展示)、②滝谷第二尾根(102号室に展示)、③北穂高岳主峰(ロビーに展示)。

足立の残した日記や手帳のメモなどを基に、長男の朗氏が画家の作家活動記録としてまとめたレゾネ『画家 足立源一郎の記録』(2002年4月/三好企画)が、朗氏より寄贈されている。それによると手帳には、1930(昭和5)年の北アルプス(剱岳)から1970(昭和45)年の沼山峠までの登山記録があり、3点の絵画については次のように記されている。

- ①"10月5日(金)晴。田代池に行く、ホタカ美しく。午後焼岳を描く。 時雨模様になり早々に引きあげる。夜雨"
- ②"5月5日(火) 10時より第二尾根P2に下る"
- ③"5月3日(日) 13時北穂小舎着。稜線の積雪頂上より六メートル高し"

なお、日本山岳会ホームページ→日本山岳会の活動案内→委員会→資料映像委員会へアクセスすると、「会報ページそのもの」を「拡大およびカラー」で見ることができます。活用ください。また、公開資料に関する情報・ご意見・ご教示など、次までお寄せください。 図jacshiryo102@jac.or.jp (資料映像委員会)

日本山岳会会報 山 833号

2014年(平成26年)10月20日発行 発行所 公益社団法人日本山岳会 〒102-0081

東京都千代田区四番町5-4 サンビューハイツ四番町

TEL 東京 (03) 3261-4433 FAX 東京 (03) 3261-4441

発行者 日本山岳会会長 森 武昭編集人 柏 澄子

E-メール:jac-kaiho@jac.or.jp 印 刷 株式会社 双陽社

とを 登 関 コ れ わ な ところをさらけ出さねば 了してくれました。 山 文学者が生 知っ を買 お わ 5 'n は、 事に 5 人間: なさ 長年に る会員 た新 のである。だからこそ、 っ ϵ \checkmark 山 たも できる場 Þ 0) 仮 は、 ح 入会員 つ は ゖ 借 う ある。 山 っ わが 0 人生を豊 たり多くの というようなこ 2営む・ たその 0変 当会も山 であ わっ ŧ で豊かにしているようだ。なり多くの登山、屋に泊いるようだ。のでの登山が屋に泊りまる。 手であ 柏 ても りた 人用 バ が Щ